



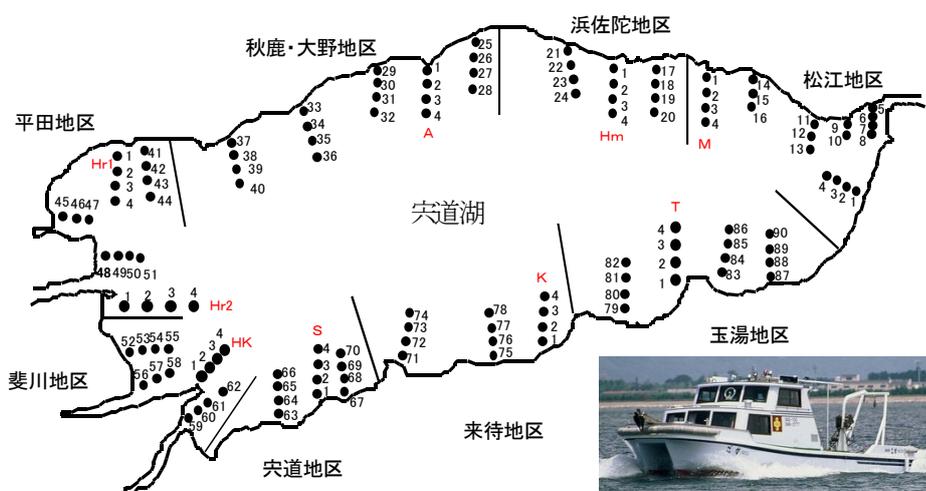
とびっくす No.86

(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/)

平成 30 年度秋季ヤマトシジミ資源量調査結果

～ 春期から資源量が減少、今後の動向を注視 ～

水産技術センター内水面浅海部では、毎年6月(春季)と10月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長 2 mm 以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の秋季調査は10月15日および16日に実施したので結果を報告します。



調査船「ごず」

図 1 調査地点

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において調査船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積 0.1 m²)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、フルイでサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

表1 ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長 12 mm 未満	4,831	343
成貝	殻長 12 mm 以上 17 mm 未満	12,486	128
	殻長 17 mm 以上 (漁獲対象)	15,041	65
全資源量		32,358	536

調査結果および考察

ヤマトシジミの資源量(表1)は約 3 万 2 千トン、536 億個が生息していると推定されました。宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移(図 2)をみると、平成 25 年秋季の急激な増加以降は高い水準にあり、平成 30 年春季は 7 万 2 千トンと過去最高水準まで増加しましたが、30 年秋季は例年増加することが多い春季から秋季に減少したため、平成 10 年以降の秋季平均値(5 万 2 千トン)の 62%と大きく低下しました。

成貝(殻長 12 mm 以上)については約 2 万 8 千トン、193 億個で、このうち漁獲対象となる殻長 17 mm 以上は約 1 万 5 千トン(全資源量の 46%)、65 億個でした。漁獲対象資源の 1 万 5 千トンは、サイズ別の報告のある平成 14 年以降の秋の平均値の 87%でした。

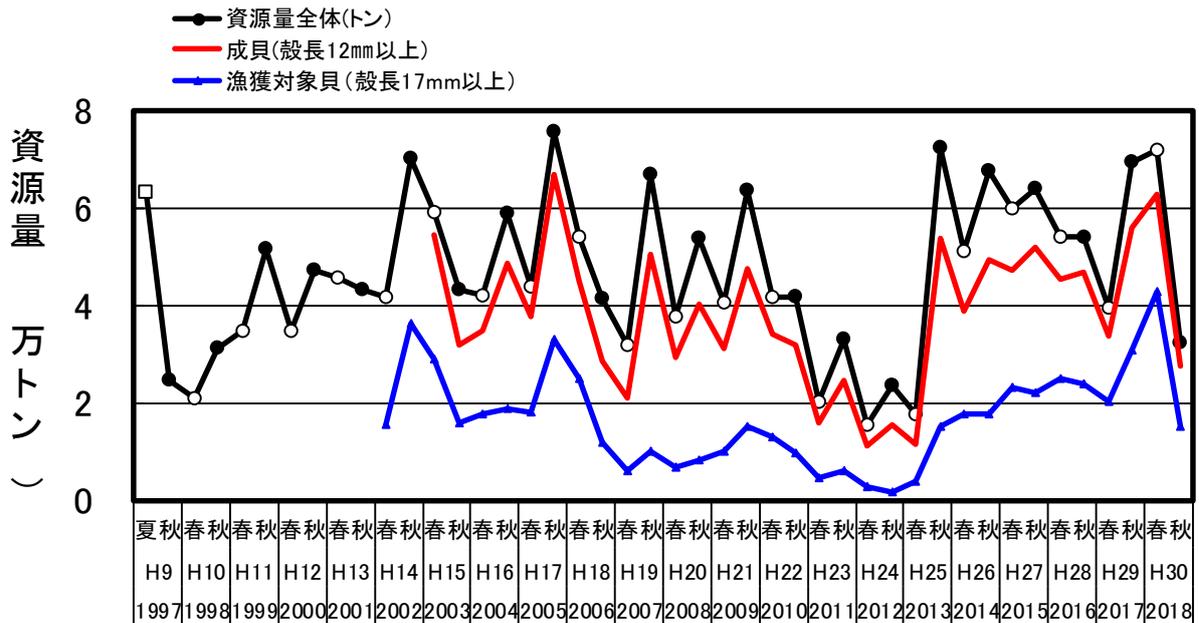


図 2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

今後の見通し

とびくす No.84(平成 30 年度春季ヤマトシジミ資源量調査結果)では、殻長 17mm 以上の漁獲対象資源は 4 万トンを超えていましたが、今季は 1 万 5 千トンと大きく低下しました。また 17mm 未満の小型貝もすべての階級で減少していました(図 3)。

今年はシジミの密度が非常に高かったことに加え、産卵期の 5~8 月にかけて例年より塩分が低く推移したことで(図 4)餌料環境が悪化したと考えられること、夏季の猛暑により局所的に高水温となるといった、例年と異なる条件や水草類の影響などが複合的に影響し、資源の低下につながったと考えられます。

過去からシジミ資源の変動には大きなものがありますが、17mm 以上の漁獲サイズの資源量は過去平均値の約 9 割を保っていること等から(図 2)、漁業者は 1 日当たり 90kg の漁獲上限を消化できています。しかし、今後、水温の低下により成長が鈍化し、資源減少が予想されるため、今後も資源動向を注視していきたいと考えています。

島根県水産技術センター

島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp

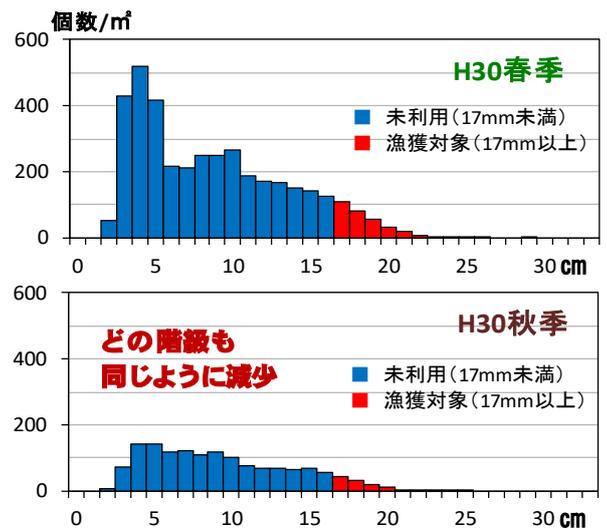


図 3 宍道湖全体のヤマトシジミの殻長組成 (平成 30 年春季と秋季、全調査地点の平均値)

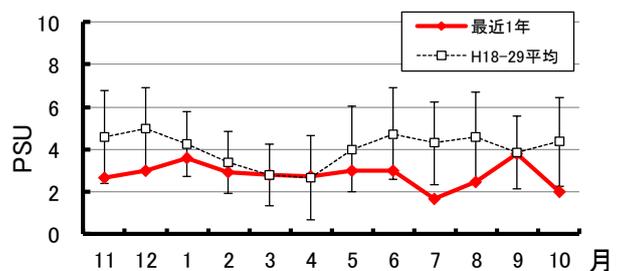


図 4 定期調査時に観測した宍道湖底層の塩分 (松江、斐川、来待、秋鹿沖の水深約 2m の平均値)